

日本三大仏の始まり

奈良大仏は天平勝宝四年(七五二)、高岡大仏は承久三年(一二二二)鎌倉大仏は寛元四年(一二四六)に創建され、いずれも非常に長い歴史があります。

そのうち大円輪の光背がそびえる高岡大仏のお姿は世に珍しく、また手印は阿弥陀定印で、右手を左手の上に置き、人差し指を立て、親指をその指頭につけた阿弥陀如来の結ぶ印です。極楽往生の仕方に九つの区別があり、阿弥陀如来の形姿にも九種あるとされ、上品、中品、下品と、それぞれに上生、中生、下生の三種があり、阿弥陀定印はその中の上品上生にあたります。

現高岡大仏は原型・鑄造とも高岡工人の手によるもので三八〇余年の伝統を誇る高岡銅器の象徴的なお姿として、仰ぎ見る私達に優しく慈眼を注いでおられます。



上品上生の定印

高岡の大佛に寄す
堀田善衛

町なかの 袈裟かたえに
身を寄せて 薄き衣に
胸あけ
カウカンと 日の照るときに
汗流し はたら雪
降りつもるとき 身はふるえ
はるかなる天より この北國の
片陽に 来たり座せる
佛の像
坐り飽き なるさまもなく
撫肩に 伏目にて
通る人をは 見て守る
さるにても その日々の流れの
長さは 茫々たり一場の夢
われもまた見守らねたるその人

堀田 善衛

1918年(大正7年) - 1988年(平成10年)

高岡市伏木出身 芥川賞受賞作家 高岡市名誉市民

年中行事

3月中旬 涅槃会
8月6日 平和祈願祭
9月23日 お身拭い
(秋分の日) 大仏法要
12月31日 除夜鐘つき



お問い合わせ先

- ◆高岡市観光交流課 高岡市広小路7番50号 ☎(0766) 20-1301
- ◆(公社)高岡市観光協会 高岡市御旅屋101番地御旅屋セリオ7階 ☎(0766) 20-1547
- ◆高岡駅観光案内所 高岡市下関町6番1号 ☎(0766) 23-6645
- ◆新高岡駅観光交流センター 高岡市下黒田1793番地2 ☎(0766) 30-2626
- 鳳徳山 大仏寺 高岡市大手町11番29号 ☎(0766) 23-9156

高岡市観光ポータルサイト「たかおか道しるべ」<http://www.takaoka.or.jp/>

H27.6.30,000



日本三大仏 高岡大仏

高岡市指定文化財 銅造阿弥陀如来坐像

高岡大仏の由来

およそ八〇〇年前、摂津国多田(兵庫県)に住む源義勝が承久の乱をきけ、入道して越中に移り、二上山麓で護持してきた八寸の金銅仏を腹中に納めた一丈六尺の木造大仏を造営したのが高岡大仏の始まりと伝えられています。その後三三〇年を経た天文弘治の頃、神保安芸守が守山城を築き、この大仏を鎮守仏と崇めました。

慶長十四年(一六〇九)前田利長公が高岡に築城の折、現在地(大手町)に移されました。その後一五〇年を経て荒廃、坂下町極楽寺第十五世等上人はこれを憂え、弟子の良欽を勧進職として延享二年(一七四五)九月再建されました。

以来、高岡町民に親しまれてきましたが、文政四年(一八二二)六月の大火で類焼、腹中の金銅仏のみが焼失を逃れました。その後、極楽寺第二十六世譲上人が発願、田中源右衛門・津幡屋太兵衛・桶屋又治郎らが住職を助けて再建に奔走、天保十二年(一八四二)木造一丈六尺の坐像が建てられました。光背の舟御光の頂上に三重の宝塔を据え、この中に火中出現の金銅仏を安置、光中の左右に十二光仏を並べ、更に全面に千体仏が配されました。

しかし、明治三十三年(一九〇〇)六月の高岡大火で再び焼失してしまいました。信徒の世話頭、松木宗左衛門は大仏の復元を一生の悲願とし、極楽寺第三十一世良禪上人と結び、さらに時の県知事の勧奨もあり、不燃の大仏の鑄造を発願、荻布宗四郎らの協力により、昭和七年(一九三二)十二月に完成、翌年五月に開眼式が盛大に挙行されました。昭和五十六年(一九八二)に多くの有縁の篤志家により坐像の大修理が行われました。平成十九年(二〇〇七)には経年によって表面のひび割れや腐食等が進んでいた大仏様の大修理が行われました。

日本一
美男の
大仏さん

昭和八年十一月歌人宇謝野晶子が来高の折、高岡大仏を拝し、鎌倉大仏より一段と美男であると感じ嘆かれた由。これより先、鎌倉での歌……
鎌倉や御仏なれど釈迦牟尼は美男におはす夏木立かな
しやかむに



高岡大仏尊像の概要

総高	15m85cm	手(長さ)	2m12cm
座高	7m43cm	指(まわり)	64cm
御顔(直径)	2m27cm	円光背(外径)	4m54cm
白毫(直径)	15cm	"(内径)	3m64cm
螺髪(直径)	9cm	"(巾)	45cm
螺髪数	648個	"(厚さ)	15cm
肉髻(直径)	45cm	蓮弁(巾)	1m21cm
眼(長さ)	36cm	"(長さ)	2m00cm
鼻孔(まわり)	30cm	蓮弁数	32枚
鼻(長さ)	1m21cm	逆蓮弁数	32枚
耳(長さ)	60cm	総重量	65トン

大円輪光背(円光背)

昭和33年(1958)9月建載された円輪光背には、阿弥陀如来の恩徳を讃える無量寿経に説く十二光仏を配する予定でしたが、重み等の理由で阿弥陀仏の仏徳を一字で表現する^{キリク}(キリク)という梵字が頂点に配されています。

大仏台座下回廊

回廊の中央部に明治時代の木造大仏の尊顔が安置され、周囲には、円光背に掛ける予定で鑄造された十二光仏が配されています。また回廊の内壁に掛けてある13枚の仏画は、昔末広町通りにあった樹齢数百年の神木「七本杉」の古材を使って、当市にゆかりの画家達が描いたものです。平成3年8月、13枚の仏画の修復が行われ、面目を一新しました。



大仏前公園内の時鐘 高岡市指定文化財

ときがね 時鐘

江戸時代にはまだ時計が普及していなかったので、町民に時を知らせる必要から、高岡町奉行寺島蔵人が時鐘の鑄造を計画し、金屋町が前田利長公以来の厚い保護に報いるため願ひ出て、文化元年(1804)に完成し据えつけられました。しかし間もなく割れ目が生じ、鍋屋仁左衛門が高岡銅器の名にかけて自ら私財を投じ、文化3年に完成しました。鏡面に儒学者皆川淇園筆による銘がきざまれています。

(坂下町極楽寺の資料による)